

2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <p>「学生による授業評価アンケート」の回答は学習成果を測定する指標として十分とはいえないが、「卒業生アンケート」の学習成果に関する設問は指標としては適切であるといえる</p> <p>学習成果の指標の開発については、ポートフォリオ、ルーブリック等の開発が必要であり、「全学教務委員会」においてその制度設計を行うとしているので、今後の検討に期待したい。</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>なし</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>全学的に導入が決定次第、学修成果の可視化（学修ポートフォリオやルーブリックなど）を図ることの検討を開始する。</p> <p>目標についての指摘に関しては、2017年度シート作成時に中期目標と2017年度目標を具体的な記述にする。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-4	成果 【自己評定A】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。(教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日)

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	<p>文学部として学生の学習成果を測定するための評価指標は設定していない。2年次から3年次への進級にあたって、教育学科を除く4学科は、卒業要件単位124単位のうち、日本文学科が40単位以上、中国学科・英米文学科・書道学科が44単位以上修得していることを進級要件としている(A4-4-1 第23条の6第4項)。</p> <p>2016年度の学生による授業評価アンケートにおいて、「Q17.この授業をとおして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。」「Q18.この授業で教わったことの中で、興味深いと感じたことはありましたか。(2015/2014 この授業で扱われた分野への関心が高まりましたか。)」 「Q19.この授業をとおして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。」「Q20.この授業を総合的にみて、満足できましたか。」の4つの設問で、「非常にそう思う」「そう思う」の肯定的な自己評価をしたのは、全学年平均で、Q17.が67.1%(67.1%・64.9%)、Q18.が72.7%(69.1%・67.6%)、Q19.が63.8%(60.3%・57.5%)、Q20.が76.8%(69.7%・68.4%)である (B4-4-1、B4-4-29 d2-表25～表28)。()内の数字、2015年度・2014年度と比較すると全てにおいて評価が3年連続向上している。</p> <p>2016年度の卒業生アンケートでは、「Q2.所属学部・学科についての専門的知識が身に付いたと思いますか。」「Q4.大学4年間で自分の目標を達成できましたか。」「Q5.社会を生き抜く力(マナー、自己管理能力、コミュニケーション能力、問題解決力など)が身に付いたと思いますか。」について、文学部平均で、「そう思う(肯定)」「少し思う(弱肯定)」が、Q2.は95.5%(90.6%・93.3%)、Q4.は86.2%(75.4%・80.3%)、Q5.は88.7%(82.8%・85.2%)である (B4-4-2、B4-4-29 d2-表29～表31)。()内の数字、2015年度・2014年度と比較すると全てにおいて評価が全てV字回復して上がっている。</p> <p>2016年度の2年から3年へ進級率は88.9%(89.6%)、卒業率は88.9%(91.2%)、卒業者の就職決定率(就職希望者に対する就職者の比率)は93.8%(87.0%)、卒業生に対する就職者比率は77.6%(72.1%)である (B4-4-29 d2-表11、表13、表14)。</p> <p>2016年度大学評価(認証評価)結果指摘事項<概評>に、「学習成果の指標の開発については、ポートフォリオ、ルーブリック等の開発が必要であり、「全学教務委員会」においてその制度設計を行うとしているので、今後の検討に期待したい。」の制度設計を待ちながら、前年度からの課題にある通り、「全学的に導入が決定次第、学修成果の可視化(学修ポートフォリオやルーブリックなど)を図ることの検討を開始する」。</p>
4-4-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用について【×】</p> <p>具体的事例：</p>

4-4-2	学則（卒業要件）の定めにより、日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の5学科とも、4年間の修業年限を満たし、所定の124単位を修得した者に卒業が認定される。卒業要件は『文学部履修の手引』に明示しているほか、毎年度当初の履修ガイダンスに持参させて説明し周知に努めている(A4-4-3 p.10、B4-4-27)。学位の授与は、学部教授会において、成績・判定資料に基づき厳格に決定しており、適切に行われている。
4-4-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学位授与基準、学位授与手続きの適切性について【○】 具体的事例：学位授与基準の適切性については、平成30（2018）年度歴史文化学科開設に伴う文部科学省への届出申請と、全学教務委員会の3つのポリシーの見直しを踏まえ、文学部教務委員会において検討を行っている。学位授与手続きの適切性については、各学科協議会の議を経て、学部教授会において成績・判定資料に基づき厳格に決定しており、適切に行われている。

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	学習成果を測定するための評価指標を設定する。各学科において学習成果の可視化の検討を開始する。
4-4-2	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-4-1 学習成果の可視化の検討を開始する。	各学科、文学部教務委員会で議論する。			A	A	
16年度目標	4-4-1 学習成果の可視化の検討を開始する。	各学科、文学部教務委員会で議論する。			A		
17年度目標	(対象期間は2017年4月～2018年3月) 4-4-1 学習成果の可視化の検討を開始する。	全学的に導入が決定次第、各学科、文学部教務委員会で議論する。				A	

Ⅳ 評価専門委員会所見

4-4-1【現状】 授業アンケートや卒業生アンケートでの評価が回復して上昇していることは評価できます。しかし進級率や卒業率が低下している原因を探る必要はあるのではないのでしょうか。またポートフォリオやルーブリック等の開発について、全学教務委員会の決定待ちのようなどころがありますが、各学科でそろそろ具体的に検討されるべきだと思います。
4-4-2【現状】学位授与手続きの適切性が担保されていることは評価できます。
4-4-1【現状】 目標欄に「学習成果の可視化の検討を開始する」と数年にわたって書かれており、議論が続いているようですが、具体的な進展が見えてきません。進展があるのであれば、具体的に記述されることが望まれます。

Ⅴ 所見への対応

4-4-1【現状】目標欄に書いた「学習成果の可視化の検討を開始する」は具体的な進展がないので、全学教務委員会の決定を待ちたいと考えます。
--

Ⅵ 次年度への課題

特になし

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-4-1	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A4-4-3	文学部 履修の手引き 平成28（2016）年度入学生用 《既出》A1-9
B4-4-1	学生による授業評価アンケートと大学教育 2014年度 《既出》B3-12
B4-4-2	FD報告書 卒業生アンケート 2014年度 《既出》B4-3-27
B4-4-27	2015年度ガイダンス日程表（学部・研究科）

B4-4-29 大学データ集 《既出》B1-22

〔追加資料〕